

としょかんNEWS 第82号



2014年1月17日
湘北短期大学図書館

学生選書ツアー参加者募集

学生選書ツアー【第20弾】を下記の要領で実施いたします。“学生選書ツアー”とは、図書館の利用者である学生自らが図書館にあったらいいと思う本、友達にオススメしたい本を、実際に書店の店頭で手にとって選書するという企画です。また、参加者の皆さんには、店頭で選書をするだけでなく、選んだ本を紹介するポップの作成など展示コーナーをプロデュースしていただきます。ご参加いただいた方には、湘北ポイント100pt とさる一ちオリジナル卓上カレンダーをプレゼント！お友達をお誘い合わせの上、是非ご参加ください。



- 日程: 2月7日(金)
- 時間: 10:00~12:00 (新宿駅南口 9:30 集合、交通費支給)
- 場所: 三省堂書店 神保町本店

● 注意事項

- (1) 選書の時間は限られていますので、下調べをしてから参加してください。事前に選んだ本のリストなどを当日持参することをお勧めします。
- (2) 選書ツアー終了後に、それぞれが選んだ本を紹介するポップを2点程度作っていただきます。選んだ本については、特別貸出が可能です(冊数制限なし)。
- (3) 選書冊数は、一人20冊を目安としてください。ただ、厳密に何冊までという決まりがあるわけではありませんので冊数を越えてしまう場合には、ご相談ください。
- (4) マンガや雑誌、シリーズ(多巻)ものは、対象外となります。ケータイ小説、タレント・ミュージシャン・スポーツ選手などの本、ドラマ・映画のノベライズは一人1冊までとなります。同じテーマの本を複数冊購入することはできません。多くの学生さんに利用してもらえるような本を選びましょう。



● 申込方法

下記の内容を明記の上、E-mail で toshokan@shohoku.ac.jp まで、お申込みください。

申込期限は、1月27日(月)までとなります。

詳細については、追って E-mail にてご連絡いたします。

1. 学生番号
2. 氏名
3. 電話番号(携帯)

QRコードを読み取って
携帯メールからも
申込みができます！



「大学(高等教育機関)の価値は、図書館でまらる」。私の指導教官がかつてそう述べたことがある。至言である。どれほど優秀な研究者教員でも、どれほど優秀な学生でも、その大学に在籍する期間はきわめて短い。だが、彼女／彼らじしんの(あるいは彼女／彼らを選んだ)「知」の集積である書籍・雑誌は図書館にいつまでも残り続ける。すなわち大学図書館の蔵書とは、その機関における知の総体であり、書籍があるということ自体にきわめて大きな価値があるのだ。

先日、研究に必要な資料を他大学の図書館から取り寄せようとしたところ、本学の図書館に蔵されていることがわかった。40年前に出版された書籍で日本教育史研究における基礎的かつ重要な資料であり、その価値は現在もきわめて高いものだが、それが本学に

あることに驚きを感じた。借り出して表紙をめくると、それが寄贈したものであることがわかった。寄贈者は井深大、本学の創設者だった。その本は一見して40年間誰も閲覧していないのはあきらかだった。そのこと自体は問題ではない。専門書とはそういうものなのだ。井深氏の卓見は、その書籍が本学に存在するということが自体に重要な価値があることを理解し、本学の「知」に、その出発点において保証を与えたという点にあるのだろう。すなわち大学図書館における蔵書の価値は、万人に読まれるという観点とは別の次元においても存在しているのだ。

出版社には、損をするとわかっていても世に出さなければいけない書籍があるという。同様に大学図書館には、読まれずとも蔵すべき書籍があるのだ。

【連載】館長閑話(3) 学校図書館との出会い

館長 野口周一

私が小学校に入学したのは1957年(昭和32)、すでに半世紀以上も前のことになってしまいました。そこで立派な図書館に出会ったのです。それは高崎市立中央小学校といい、創立80周年記念として計画され、1955年(昭和30)に開館したのです。総建坪80坪(246.46㎡)、古びた校舎をしりえに、堂々たる独立図書館が運動場の一角に屹立していました。当時「日本一」と聞いた記憶がありません。図書館の南西には2本の榎の木があり、夏には涼風が吹き抜け、まさに緑陰となっていました。

低学年時代の思い出はないのですが、3年生のときには週に1時間、図書館の時間が設けられていました。その頃、何を読み始めていたのでしょうか。当時の小学校には、講談社の『少年少女世界文学全集』全50巻が例外なく置かれていたようです。私も、その中から「ロビン・フッドの冒険」、「ガリバー旅行記」、「宝島」、「ニルスのふしぎな旅」等々に親しんで行きました。その後、親に大部無理を言って、これを購入しましたが、残念ながら欠本が

ありました。現在は物置に箱詰めで保存していますが、そろそろ廃棄すべき時機が来ているようです。

この図書館は、新校舎建設にあたり、2006年(平成18)3月に閉館となり、そこで豊かな時を過ごした経験をもつ私たちには寂しい限りでした。ただ、榎の木一本が伐採され、切り株でできた椅子(直径110cm)が図書館と校長室に配置されたことは大きな慰めとなりました。ちなみに、生活プロデュース学科の佐藤知条先生の奥様が、ここで学ばれたことを伺い、嬉しい限りでした。



思い出の旧図書館
(高崎市立中央小学校)

～編集後記～

図書館で学生選書ツアーを始めて10年、記念すべき【第20弾】を三省堂書店の神保町本店で行います。神保町といえば、古本屋街とおいしいカレー屋さん。選書ツアーが終わったあとは、神保町でお散歩も楽しそうですね。たくさん申し込み、お待ちしております！ (担当 KT)